

事務事業分析シート（平成22年度）

No1

事務事業名	国内都市交流事業	部課名	区民生活部文化交流推進課	課長名	富樫 誉
		担当者名	相田真紀	内線	2522
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（22年度）	国内都市交流事業（01-02-01）				
事務事業の種類	新規事業（22年度 21年度）	建設事業	それ以外の継続事業		
開始年度	昭和 平成 56年度	根拠			
終期設定	有 無 年度	法令等			
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準	計画区分	計画	非計画	
行政評価事業体系	分野	文化創造都市[ ]			
	政策	伝統文化の継承と都市間交流の推進[09]			
	施策	国内・海外都市との交流の推進[09-02]			
目的	生活環境や地域文化の異なる地域の人々との交流を深めることにより、区民に豊かな自然とのふれあいの場を提供し、区民の心の豊かさや相互の町の活性化を図る。平成17年11月に策定した「荒川区都市間交流に関する取り組み方針」に基づき、国内外の都市との交流を積極的に推進することにより、荒川区の魅力と活力を高め、より豊かな区民生活の実現をめざす。				
対象者等	区民				
内容	<p>秩父市：リンゴとS.Lの旅（勤福センターで実施しその費用の一部を補助）、「区民リンゴ園」リンゴ狩り事業（平成3年度～平成16年度）、「旅立ちの丘コンサート」荒川区民フィルハーモニー合唱団（平成19年度・20年度）、東京荒川少年少女合唱隊（平成21年度）参加等 大多喜町：たけのこ狩り（勤福センターで実施しその費用の一部を補助） 大多喜お城まつり参加（＜天王太鼓つくも会＞を派遣）等 上越市：上越市観光と物産展参加（＜都電の街グループ＞に謝礼を支払い派遣）等 北杜市：高根いきいきふるさと祭り参加（＜北島商店＞に謝礼を支払い派遣）等 鴨川市：シーフェスタinKAMOGAWA参加（＜都電の街グループ・北島商店＞派遣、フラダンスグループ「カ・パ・フラ・オ・カ・ブ・ア・メリア」出演、区長式典出席）等 福島市：ミスピーチキャンペーンクルー市長トップセールス区長表敬訪問（H21は区庁舎1Fにて桃の試食）、女性団体消費者懇談会、桃の花枝寄贈（区内小学校・公共施設等配付）、うつくしま地域間交流シンポジウム区長出席、防災協定調印、天津水蜜桃が贈呈され植樹式を実施（平成19年度）、区民が震災疎開ツアーに参加 等 桑折町：こおり桃源郷「桃の郷まつり」参加（＜都電の街グループ＞に謝礼を支払い派遣）等 福井県：高齢者クラブ連合会による民謡交流、青年団体連合会が福井訪問（平成20年度）、そば打ち講座開催（平成20年度）、橋本佐内鞘堂を福井市郷土歴史博物館からふるさと文化館へ移設（平成20年度）福井市郷土歴史博物館から佐内陶像を借用（平成21年3月～1年間）、水仙まつりPRのため水仙娘区長表敬訪問（H22.1）等 小野町：交流事業（荒川区青年団体連合会13名参加（平成19年度）荒川区尾久交通少年団参加（平成20年度）等 つくば市：つくば産業フェアに出店、産業展につくば市出店、サマーライフinつくばに区内親子45名参加、つくばサイエンスラボ参加（平成20年度）、あらかわキャラバン事業にてつくば少年少女合唱団と東京荒川少年少女合唱隊が交流コンサート実施（平成20年度）、東京荒川少年少女合唱隊「つくば物語」出演（21年度）、中学生・女子サッカー交流試合、茨城ゴールデンゴールズによる合同少年野球教室、つくばユナイテッドサンガイアによる諏訪台中学校出張バレーボール教室（21年度）筑波山梅まつりPR区長表敬訪問（20・21年度）等 その他石川町、釜石市、村上市、射水市、鮭川村、潮来市、二本松市、津南町も交流都市である（川の手荒川まつりに出店）。大垣市、つがる市、三条市、米沢市、広尾町も川の手荒川まつりには出店している。</p>				
経過	<p>秩父市（旧荒川村）：17.4.1合併（S56姉妹提携、H7防災協定・21再調印）、大多喜町：昭和60年から交流（H7友好都市提携・防災協定）、上越市（旧吉川町）：17.1.1合併 昭和62年から交流（H7防災協定）、北杜市（旧高根町）：16.11.1合併（昭和62年から交流）、鴨川市：平成元年から交流（H3友好都市提携・H7防災協定）、福島市、桑折町、石川町：平成6年から交流（福島市H18防災協定、石川町H8防災協定）、釜石市：平成10年から交流（H11防災協定）、村上市（旧荒川町）：平成8年から交流、射水市（旧下村）：平成11年から交流、鮭川村：平成15年から交流、潮来市、福井県：平成16年から交流、二本松市（旧東和町平成17年12月1日合併）、小野町：平成17年から交流、つくば市：平成18年から交流（H20年5月友好都市提携）、津南町：平成19年から交流 H17年度「荒川区都市間交流に関する取り組み方針」策定 22年度からは、本事業のうち交流事業へ団体派遣している事業はあらかわキャラバン事業へ予算組替（鴨川市「シーフェスタ」、大多喜町「大多喜お城まつり」、つくば市「つくば物語」、秩父市「旅立ちの丘コンサート」）の交流事業への団体派遣</p>				
必要性					
実施方法	<p>（1直営）（直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 秩父市：リンゴとS.Lの旅（勤福センターへの補助事業、バス借上げ代1台分の1/2相当を補助）平成11年度から 大多喜町：竹の子狩り（勤福センターへの補助事業、バス借上げ代1台分の1/2相当を補助）平成11年度から つくば市：ぶどう狩り（勤福センターへの補助事業、バス借上げ代1台分の1/2相当を補助） 福島市：トップセールス（市長一行が来庁、桃のキャンペーン）、その他各都市のイベントに団体を相互派遣している。</p>				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	
予算額	679	663	969	1,526	2,987	2,630	2,136	
決算額（22年度は見込み）	535	238	528	491	2,002	1,884	2,136	
人件費		3,924	4,538	3,843	2,965	3,828		
【事務分担量】（%）		60	60	45	35	47		
合計（+）	535	4,162	5,066	4,334	4,967	5,712	2,136	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	535	4,162	5,066	4,334	4,967	5,712	2,136	
実績の推移	事項名	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
	秩父市交流事業数	2	0	3	3	5	5	
	大多喜町交流事業数	2	2	2	2	4	3	
	上越市交流事業数	2	1	1	1	2	3	
	北杜市交流事業数	1	0	0	0	2	2	
	鴨川市交流事業数	1	1	1	2	3	2	
	福島市交流事業数	3	2	3	5	5	4	
	桑折町交流事業数	1	0	1	1	1	3	
	釜石市交流事業数	1	0	0	1	1	1	
	福井県交流事業数					5	3	
小野町交流事業数					3	1		
つくば市交流事業数					5	6		

事務事業分析シート（平成22年度）

予算・決算の内訳	節・細節	平成20年度（決算）		平成21年度（決算）		平成22年度（予算）	
		主な事項		主な事項		主な事項	
		金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）		
報償費	まつりの出店団体謝礼	352	まつりの出店団体謝礼	424	まつりの出店団体謝礼	398	
職員旅費	交流事業調整、まつり参加	363	交流事業調整、まつり参加	159	交流事業調整、まつり参加	386	
特別旅費	交流事業調整、まつり参加	37	非常勤（秋父）合唱隊（福島）	0			
食糧費	つくば市調印交流会贈い	99	交流都市等訪問時贈い	109	交流都市等訪問時贈い	759	
一般需用費	事業・まつり土産、つくば調印用品	262	交流事業調整、まつり参加土産	411	交流事業調整、まつり参加土産	649	
役務費	小野町交流参加者保険料	18	通信運搬費（秋父市団体派遣交通費）	65	通信運搬費（秋父市団体派遣交通費）	0	
委託料	小野町交流そば打ち委託	49		0			
使用料及び賃借料	小野町交流バス宿泊料・バス借上料	706	大多喜町、鴨川市・つくば市バス借上等	540	大多喜町、鴨川市・つくば市バス借上等	270	
負担金及び交付金	交流事業補助（秋父市、大多喜町）	117	交流事業補助（秋父市、大多喜町、つくば市）	176	交流事業補助（秋父市、大多喜町、つくば市）	323	

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		19年度	20年度	21年度	22年度	目標値 (25年度)	
標	交流都市数	18	18	20	23	22	
	交流事業実施都市数	13	14	22		25	

問題点・課題 （指標分析）	より多様な交流のため、交流事業を文化交流推進課のみにとどめず、他の関係部課とも調整する機会を設ける。 行政同士の交流にとどまらず、住民相互が交流し、各都市を体感できるような企画を検討する。 全ての交流都市において同レベルの交流をすることは難しいため、優先順位をつけて密度の濃い交流を行うことが考えられる。
	他区の実況 （実施 区 未実施 区）

問題点・課題の改善策検討		
	平成23年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
	関係部課による連絡調整会議を設置し具体的な交流内容を検討する。	各都市との幅広い交流ができる。
	訪問バスツアーをはじめとして、産品・グリーンツーリズムなど、単なる観光に終わることなく各都市の魅力・特典を実感できるような事業を企画・検討する。	区民が年間を通して各都市と交流ができるようになる。
	各交流都市の荒川区との交流に対する考え方や、各都市の交流資源を調査・把握し、事業実施の検討の材料とする。	事業実施を検討するにあたり、より密度の濃い交流内容の実現が期待できる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
重点的に推進	重点的に推進	交流資源を掘り下げ、区民主体の事業を今後も積極的に展開する。

況議 （要 旨） 問 状	他自治体との友好交流のあり方について、基本的な考え方。（17年2定）
--------------------------	------------------------------------

# 事務事業分析シート（平成22年度）

No1

事務事業名	国際交流協会補助		部課名	区民生活部文化交流推進課	課長名	富樫 誉
			担当者名	浦田寛士	内線	2524
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（22年度）	国際交流協会補助（01-03-01）					
事務事業の種類	新規事業	（ 22年度 21年度 ）	建設事業	それ以外の継続事業		
開始年度	昭和	平成	5 年度	根拠	荒川区国際交流協会補助金交付要綱	
終期設定	有	無	年度	法令等	設立趣意書	
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	文化創造都市[ ]				
	政策	伝統文化の継承と都市間交流の推進[09]				
	施策	芸術・文化の振興[09-01]				
目的	区民の国際交流活動の拠点として国際交流事業を推進し、外国都市との友好親善と区民の国際理解を深めながら荒川区の国際化を図り、荒川区を世界に開かれた夢のあるまちとすることを目的とする。【協会会則第3条】					
対象者	荒川区国際交流協会					
内容	<p>荒川区国際交流協会の概要</p> <p>設立 平成5年10月21日</p> <p>組織 理事：12人、事務局：5人（区職員兼務）、監事：2人</p> <p>役員 理事長：岡本義雄 副理事長：三嶋重信（副区長） 常務理事：小林清三郎 事務局長：高梨博和（区民生活部長）</p> <p>会員 賛助会員：106件（団体・企業16件、個人90）</p> <p>協力会員：382人（日本人351人、外国人31人） 22年5月21日現在</p> <p>目的 区民の国際交流活動の拠点として国際交流事業を推進し、外国都市との友好親善と区民の国際理解を深めながら荒川区の国際化を図り、荒川区を世界に開かれた夢のあるまちとすることを目的とする。【協会会則第3条】</p> <p>事業（開始年度）、人数等は21年度実績</p> <p>在住外国人支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外国人のための日本語教室（13年度：5～12年度では区事業）...年間132回（66回×2コース）</li> <li>留学生等への生活用品支援（6年度）...年2回（4月10日）、ボランティアからの寄付物品を日本語学校等に配付</li> </ul> <p>世界の国々との交流事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>オレゴン州立大学研修生受入支援（13年度）...1人、ウィーン大学研修生受入支援（17年度）...2人</li> <li>ドナウシュタット区の高校生受入（6年度）...6人、ドナウシュタット区への高校生派遣（9年度）...7人</li> <li>ドナウシュタット区柔道会受入</li> <li>第31回荒川区産業展への参加（協力事業）</li> <li>荒川区高齢者クラブ連合会と済州市老人会の民間交流に係る補助、済州市老人会受入</li> <li>日暮里ファッションショーの実施に伴う代表団の受入</li> </ul> <p>区民相互の交流事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>川の手荒川まつり参加（6年度）...世界の民族衣装試着体験と協会パンフレット等の配布 90人、荒川区産業展参加</li> <li>日本語スピーチコンテスト（7年度）...発表者13人、ボランティア18人</li> <li>防災ハイク（21年度）...立川防災館にて震災体験、昭和記念公園 参加者39人</li> <li>国際交流サロン（6年度）...盆踊り：外国人38人、日本人12人・荒川区総合震災訓練参加：外国人30名</li> <li>国際交流バスハイク（6年度）...交流都市つくば市（JAXA宇宙センター・豊里ゆかりの里）、外国人20人、日本人20人</li> <li>茶道教室（13年度）...月2回、延べ122人</li> <li>着付教室（14年度）...延べ23人</li> </ul> <p>国際理解事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本語サロン（10年度）...週1回×2コース、ボランティアによる自主運営</li> <li>日本語ボランティア養成講座（6年度）...36回（18回×2コース）、受講者46人</li> </ul> <p>広報調査事業 機関紙の発行（5年度）...17年度より「関係団体ニュース」、事務局だより（月1回）、荒川区産業展出展（9年度）</p> <p>その他 ボランティア通訳の派遣、翻訳、各種公共・民間等主催事業の共催・後援・協力など</p>					
	経過	自主財源は会費及び事業収入等で、12年度までは総収入の15%程度であったが、区の補助金減少、賛助会員の増強や新たな受益者負担により、15年度以降は45%程度となった。17年度は済州市、大連市中山区との友好都市提携に伴う、区補助金増のため、自主財源率は38%となった。18年度予算ではドナウシュタット区訪問等経費増による区補助金増により、自主財源率は22.1%である。19年度は37%、20年度は38.3%、21年度は36.7%である。				
必要性	多文化共生意識を育み、世界に開かれた街としての荒川区の魅力や活力を高める（荒川区都市間交流に関する取組み方針 H17.11 ）という区の方針を実現するために事業を行っている団体であり、支援は不可欠である。					
実施方法	（ 1直営 ） （ 直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員 ） 協会より派遣依頼を受け、区民生活部長は事務局長、課長は事務局次長、都市交流係員は事務局員として兼職。					

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	
予算額	3,690	5,147	11,632	6,547	6,247	6,147	6,147	
決算額（22年度は見込み）	3,629	4,864	9,530	4,382	5,857	5,603	5,603	
人件費				11,102	11,011	10,587	10,587	
【事務分担量】（%）				130%	130%	130%	130%	
合計（+）	3,629	4,864	9,530	15,484	16,868	16,190	0	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	3,629	4,864	9,530	15,484	16,868	16,190	0	
実績の推移	事項名	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
	協力会員（人数）	280	303	328	348	325	382	
	賛助会員（件数：団体+個人）	136	144	78	104	101	106	
	補助金の協会事業に占める割合	54.2%	65.3%	58.2%	62.8%	67.3%	63.3%	

事務事業分析シート（平成22年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成20年度（決算）		平成21年度（決算）		平成22年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
		負担金補助及び交付金	国際交流協会補助	5,857	国際交流協会補助	5,603	国際交流協会補助

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		19年度	20年度	21年度	22年度	目標値(25年度)	
標	協力会員数	348	325	382		400	
	賛助会員数	104	101	106		200	個人+団体数
	区民ツアー実施都市数	1	1	0		3	

問題点・課題 (指標分析)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協力会員への情報提供や研修の機会を充実することにより、協会事業に対して継続的に参加する会員を増加させるとともに、会員の満足度を高めていく必要がある。</li> <li>・国際交流協会の事業などを積極的にPRすることによって、協会の趣旨に賛同する賛助会員を増加させ、協会の自主財源率の向上に努め、財政基盤を確たるものとする必要がある。</li> <li>・平成17年11月に区が策定した「荒川区都市間交流に関する取り組み方針」及び交流都市の意向を踏まえて、継続可能な具体的な交流メニューを検討していく必要がある。</li> </ul>
	他区の実況 （実施 11 区 未実施 区） 東京都国際交流団体連絡会議

問題点・課題の改善策検討	
平成23年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
国際交流協会のホームページやCATV、事務局便りの内容を充実することによって、実施事業の周知を図る。	協会の事業実績を区民に周知することにより、荒川区の国際交流に対する区民の認識を高めるとともに、協力会員及び賛助会員数を増加させることができる。
海外都市交流区民ツアーをの恒例化を図る。 (ウィーン・大連市中山区・済州市)	区民ツアーを恒例化することによって、区民が計画性を持って都市間交流に参加できるようになるとともに、区民ツアー参加者の増加を図ることができる。
民間交流補助制度の積極的活用を図る。	区内で活動する民間団体を国際交流事業に巻き込むことによって、民間主体の草の根交流を活性化させる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
重点的に推進	重点的に推進	区民主体の国際交流の推進母体として支援が必要である。

況議 (要 旨 問 状)	
--------------------------	--

# 事務事業分析シート（平成22年度）

No1

<b>事務事業名</b>	海外都市交流事業	<b>部課名</b>	区民生活部文化交流推進課	<b>課長名</b>	富樫 誉
		<b>担当者名</b>	浦田寛士	<b>内線</b>	2524
<b>事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（22年度）</b>	海外都市交流事業(01-03-02)				
<b>事務事業の種類</b>	新規事業（22年度 21年度）		建設事業		それ以外の継続事業
<b>開始年度</b>	昭和	平成	5年度	<b>根拠</b>	友好都市提携協定
<b>終期設定</b>	有	無	年度	<b>法令等</b>	国際化推進員設置要綱
<b>実施基準</b>	法令基準内		都基準内	区独自基準	<b>計画区分</b>
<b>行政評価事業体系</b>	<b>分野</b>	文化創造都市[ ]			
	<b>政策</b>	伝統文化の継承と都市間交流の推進[09]			
	<b>施策</b>	芸術・文化の振興[09-01]			
<b>目的</b>	海外都市に対する区民の関心を高めることにより、世界に開かれたまちとしての荒川区の魅力や活力を高めるとともに、産業交流等により区内の優れた技術や製品を広くアピールする。（荒川区都市間交流に関する取り組み指針）				
<b>対象者等</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドナウシュタット区（オーストリア共和国ウィーン市）...平成8年10月21日提携</li> <li>・済州市（韓国済州道）...平成18年2月17日提携</li> <li>・中山区（中国大連市）...平成18年3月10日提携</li> <li>・コーパリス市（アメリカ合衆国オレゴン州） 提携調印は無し</li> <li>・その他</li> </ul>				
<b>内容</b>	海外友好都市等との都市間交流、連絡、調整及び相互訪問等 ・ドナウシュタット区：ドナウシュタット区柔道会来区、高校生相互派遣（国際交流協会主管）、ウィーン大学生の荒川区での研修受入 ・済州市：区民ツアー、済州市研修生受入、ABC卒業生の短期派遣、ドルブルへの参加 ・中山区：区民ツアー、産業交流（日暮里ファッションショー）、ABC卒業生の短期派遣 ・その他：オレゴン州立大学研修生受入				
<b>経過</b>	<ドナウシュタット区> ・4年度 児童生徒絵画展（以後荒川区にて平成11年度を除き毎年） ・5年度 荒川区長ドナウシュタット区（以下、ド区）訪問 ・6年度 ド区高校生受入（以後11、14年度を除き毎年） ・7年度 荒川少年少女合唱隊ド区訪問 ・8年度 友好都市提携調印・ド区長来区、荒川公園で記念植樹（さくらの木）・9年度 荒川区高校生ド区へ派遣（以後毎年） ・13年度 提携5周年記念荒川展ド区で開催、南千住駅東側にドナウ広場・ドナウ通り完成、ド区に荒川通り開通、交流壁画、区民ツアー（協会事業）・14年度 ド区代表団を迎えドナウ広場で彫刻「ドナウの調べ」除幕 ・18年度 友好都市提携10周年記念事業、区民ツアー・19年度 荒川区柔道会ド区訪問 ・20年度 荒川区代表団訪問、ド区訪問団来日（コンサート開催、お菓子教室開催、産業展への参加） ・21年度 日唄修好140周年記念事業（在日日本大使館にて荒川区展を開催予定であったが、新型インフルエンザ流行のため中止） <済州市> ・17年度 済州市市制施行50周年記念式典に荒川区議会副議長ほか出席、両区・市長の相互訪問、友好都市提携調印、荒川区にて済州写真展開催・18年度 荒川区写真展（済州市と共催）を済州市で開催、代表の相互訪問、区民ツアー（協会事業） ・19年度 済州市職員研修生の受入 ・20年度 荒川区高齢者クラブ連合会と済州市老人会との相互訪問・交流、済州市職員研修生の受入、トルハルバン受贈及びお披露目式、済州市長代表団の訪問、ドルブルへの代表団派遣 ・21年度 荒川区高齢者クラブ連合会と済州市老人会との友好提携調印式出席、済州市老人会受入、荒川区高齢者クラブ連合会済州市訪問区民ツアー、済州市長代表団受入、ABC職員短期派遣 <大連市中山区> ・17年度 両区長の相互訪問、友好都市提携調印、荒川区産業展において大連文化展開催 ・18年度 友好都市提携調印式（中山区）、代表団相互訪問、産業交流（日暮里ファッションショー・産業展）、大連市少年野球チームの小学校訪問と区少年野球チームとの交流試合（大連ウィーク）、区民ツアー（協会事業） ・19年度 区民ツアー（協会事業）、日暮里ファッションショーへの参加 ・20年度 日暮里ファッションショーへの参加、区立第三中学校及び尾久宮前小学校の訪問 ・21年度 日暮里ファッションショーへの参加、大連市中山区職員研修生受入、ABC職員短期派遣 <コーパリス市> ・4年度 児童生徒絵画展（以降7年度まで相互開催） ・5年度 コーパリス市長夫妻荒川区訪問 ・6年度 荒川区長コーパリス市訪問、荒川区職員研修生コーパリス市派遣 ・9年度 オレゴン州立大研修生受入（2名11年度・15年度を除き毎年1名来日） 9年度以降は大学との交流のみ <その他> ・シンガポール：区立中学生2年生をシンガポール市・マレーシア（クアラランブール市・マラッカ市）に派遣（昭和59～） ・北京市通州区ほか：小中学生の学校訪問による交流など				
<b>必要性</b>	荒川区の友好都市との交流事業(済州市、中山区との新たな交流体制の構築、ドナウシュタット区との交流促進)ほか区の国際化事業を推進する。				
<b>実施方法</b>	(1直営) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員) ウィーン大学・オレゴン州立大学研修生の受入を除き、交流事業は基本的に荒川区国際交流協会が実施。				

予算・決算額等の	(単位：千円)							
	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	
予算額	2,748	9,565	18,399	16,292	15,388	12,689	14,595	
決算額(22年度は見込み)	2,573	9,207	18,399	10,279	12,954	9,674		
人件費		5,171	5,124	5,124	5,082	3,583		
【事務分担量】(%)		60%	60%	60%	60%	44%		
合計(+)	2,573	14,378	23,523	15,403	18,036	13,257	0	
国(特定財源)								

## 事務事業分析シート（平成22年度）

推移	都（特定財源）							
	その他（特定財源）							
	一般財源	2,573	14,378	23,523	15,403	18,036	13,257	0
実績推移	事項名	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
	海外出張旅費支出人数	0	20	30	9	11	3	
	海外受入団体数	2	6	4	2	5	5	

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成20年度（決算）		平成21年度（決算）		平成22年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	報酬	国際交流推進員報酬	7,819	国際交流推進員報酬	7,818	国際交流推進員報酬	7,822
	共済費	国際化推進員社会保険料	957	国際化推進員社会保険料	1,028	国際化推進員社会保険料	986
	報償費	トルハルパンお披露目式演奏会謝礼	75		0		0
	旅費	交流都市訪問等	2,390	交流都市訪問等	415	交流都市訪問等	3,768
	食糧費	訪問団等賄い	810	訪問団等賄い	261	訪問団等賄い	900
	一般需用費	交流都市訪問団賄・記念品	249	交流都市訪問団賄・記念品	63	交流都市訪問団賄・記念品	210
	役務費	翻訳・通訳	35	翻訳・通訳	75	翻訳・通訳	510
	使用料	携帯電話レンタル等	70	携帯電話レンタル等	14	携帯レンタル・バス借上げ	399
	備品購入費	ウィーン絵画	550		0		

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		19年度	20年度	21年度	22年度	目標値 (25年度)	
標	訪問回数	4	3	2		3	荒川区 交流都市
	受入回数	2	4	5		3	交流都市 荒川区

問題点・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成17年11月に策定した「荒川区都市間交流に関する取り組み方針」及び各友好都市の意向を踏まえて、持続可能な具体的交流メニューを検討する必要がある。</li> <li>海外都市間交流に対する区民の知名度を向上し、都市間交流を区民の共有財産とする必要がある。</li> </ul>
	他区の実況 （実施 21 区 未実施 区） 姉妹・友好都市提携状況

問題点・課題の改善策検討	
平成23年度以降に取り組み具体的な改善内容	改善により期待する効果
・ドナウシュタット区との交流 23年度に友好提携15周年を迎えるにあたり、記念事業及び棄民ツアーなどの企画を通して、広く区民に交流実績をPRしながら、継続的な交流事業を推進していく。	区民の都市間交流に対する認知度を高めるとともに、都市間交流を区民の共有財産にまで高めることができる。
・濟州市との交流 22年度末に友好提携5周年を迎えるにあたり、ダブル訪問等の区民ツアーや職員の短期派遣など持続可能な恒例事業の創設及び充実を図る。	恒例事業の創設により、区民の都市間交流に対する認知度を高めるとともに、都市間交流を区民の共有財産にまで高めることができる。
・大連市中山区との交流 22年度末に友好提携5周年を迎えるにあたり、区民ツアーを実施するとともに、日暮里ファッションショーに対する支援を継続して行い、文化・スポーツなどの分野で持続可能な具体的交流メニューを創設する。	区民の都市間交流に対する認知度を高めるとともに、都市間交流を区民の共有財産にまで高めることができる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
重点的に推進	重点的に推進	国際理解、文化振興のため大きく貢献する事業である。

議事要旨	・18年二定（斉藤泰紀議員）「今後、都市間交流を進めていくにあたっての区の考えについて」
------	--

# 事務事業分析シート（平成22年度）

No1

事務事業名	ウィーン2009関連事業	部課名	区民生活部文化交流推進課	課長名	富樫 誉
		担当者名	浦田寛士	内線	2524
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（22年度）	ウィーン2009関連事業(01-03-03)				
事務事業の種類	新規事業（22年度 21年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	21年度	根拠	友好都市提携協定
終期設定	有	無	21年度	法令等	
実施基準	法令基準内		都基準内	区独自基準	計画区分
行政評価事業体系	分野	文化創造都市[ ]			
	政策	伝統文化の継承と都市間交流の推進[09]			
	施策	芸術・文化の振興[09-01]			
目的	<p>国レベルでの交流機運の盛り上がりが見られる中、在オーストリア日本大使からの強力なバックアップを得て、より効果的にドナウシュタット区との友好交流を深める。</p> <p>事業を通してドナウシュタット区と荒川区住民の相互理解を深める。</p> <p>自治体レベル、草の根レベルでの友好交流を図ることにより、日本オーストリア両国の友好関係維持発展に資する。</p> <p>その技能や活動を広く海外に発信し、区の芸術文化の担い手である関係者、関係団体の幅広い活動を展開する契機とするとともに、誇りを持って活動を継承発展させる契機とし、芸術文化活動を振興する。</p> <p>広く区民の参画を得て区民の国際化意識の増進に資するとともに、区内の文化芸術を広く海外に紹介することにより、世界に開かれたまちあらかわをアピールする。</p>				
対象者等	<p>荒川区伝統工芸技術者（江戸文字、つまみかんざし、江戸指物）</p> <p>荒川マイスター（貴金属加工銀食器、貴金属加工装身具、貴金属加工へら絞り）</p> <p>松本源之助氏（江戸里神楽）</p> <p>松田全代氏（長唄）</p>				
内容	<p>海外交流都市であるウィーン市ドナウシュタット区と協力し、在奥日本大使館において荒川区展示会を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 伝統工芸技術品、マイスター製品、芸術文化公演等</li> <li>・ 開会記念式典、荒川区・ドナウシュタット区関係者交流レセプション</li> <li>・ 訪問団の派遣、区民ツアーの実施</li> </ul> <p>【訪問団日程（案）】</p> <p>5月 4日（月） 区長及び出展者等訪問団 成田発ウィーン着</p> <p>5月 5日（火） ドナウシュタット区長 表敬訪問</p> <p>5月 6日（水） 在奥日本大使館 表敬訪問</p> <p>在奥日本大使館での荒川区展示会を実施</p> <p>在奥日本大使公邸においてレセプション</p> <p>5月 7日（木） 市内視察等 区長はロンドン出張</p> <p>5月 8日（金） ウィーン発</p> <p>5月 9日（土） 成田着 (4泊6日)</p> <p>5月10日（日） 区長 成田着 (5泊7日)</p> <p>【展示会概要】</p> <p>日程 5月6日（水曜日）</p> <p>10時 荒川区展＜在奥日本大使館＞</p> <p style="padding-left: 20px;">開会式典・記念アトラクション（松本源之助氏及び松田全代氏出演）</p> <p style="padding-left: 20px;">伝統工芸技術、マイスター技術の展示、実演</p> <p>19時 レセプション（在奥日本大使公邸）松本源之助氏・松田全代氏出演</p> <p><b>新型インフルエンザの世界的拡大を受け、荒川区展示会を当面延期することを決定した。</b></p> <p><b>（2009年4月28日）</b></p>				
経過	<p>2008年2月 在オーストリア日本大使（田中映男氏）が荒川区長を訪問し、ウィーン市ドナウシュタット区との交流実績がある荒川区に対して、日奥両国が行う2009日奥交流年事業について協力要請があった。</p> <p>2009年1月 庁内PT開催</p> <p>2009年3月 荒川区企画展事業決定、業者選定委員会</p> <p>2009年4月 業者選定、派遣者説明会、新型インフルエンザ感染拡大により事業延期を決定</p>				
必要性	荒川区の海外交流都市との交流事業の活性化及び荒川区の文化芸能の世界への発信により、世界に開かれたまち、荒川をアピールする。				
実施方法	<p>（2一部委託）（直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）</p> <p>荒川区企画展運営業務を業者へ委託し、それ以外の調整事務（在オーストリア日本大使館、ウィーン市ドナウシュタット区との連絡調整及びスケジュール管理等）は区が行う。</p>				

予算・決算額等の	（単位：千円）							
	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	
予算額						16,482		
決算額（22年度は見込み）						6,127		
人件費						1,303		
【事務分担当】（%）						16%		
合計（+）						7,430	0	
国（特定財源）								

## 事務事業分析シート（平成22年度）

推 移	都（特定財源）							
	その他（特定財源）							
	一般財源						7,430	0
実 績 推 移	事項名	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度

No2

予 算 ・ 決 算 の 内 訳	節・細節	平成20年度（決算）		平成21年度（決算）		平成22年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	旅費			出張及び派遣取消料	1,876		
	食糧費						
	一般需用費						
	委託料			荒川区展運営委託取消料	4,251		
	使用料						

指 標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					目標値 (25年度)	指標に関する説明
		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		

（問題点・課題 指標分析）	
他区の実 状況	（実施区 未実施区）

問題点・課題の改善策検討	
平成23年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
休止・完了	休止・完了	日壇交流年（ウィーン2009）が終了したため。

況議 （要 旨） 問 状	
--------------------------	--

# 事務事業分析シート（平成22年度）

No1

事務事業名	あらかわキャラバン事業	部課名	区民生活部文化交流推進課	課長名	富樫 誉
		担当者名	金田幸三	内線	2522
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（22年度）	あらかわキャラバン事業（01-07-01）				
事務事業の種類	新規事業（22年度 21年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和 平成	20 年度	根拠		
終期設定	有 無	25 年度	法令等		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	文化創造都市[ ]			
	政策	伝統文化の継承と都市間交流の推進[09]			
	施策	芸術・文化の振興[09-01]			
目的	荒川区と交流都市との交流は、双方の地域の祭りに参加するなどして、名産品の紹介・販売や、人と人との交流は図られてきたが、芸術・芸能・文化面で各都市を代表する団体・個人の交流は伝統芸能以外は他は十分ではないため、キャラバンとして区を代表する団体・個人を交流都市等へ派遣し、交流・公演をすることにより、区の芸術文化面を紹介するとともに、区民の芸術文化活動を促進する。				
対象者等	荒川区内で、交流都市へ出かけて文化・交流事業を展開できる団体及び個人。				
内容	派遣団体とは、キャラバン隊として5年程度の間、毎年、異なる交流都市に出向いて、交流活動を行う。区は、交流都市との調整を実施するとともに派遣に必要な交通費、宿泊費等の必要経費を負担する。また21年度まで国内都市交流事業として区内団体を派遣していた鴨川市及び大多喜町との交流事業についても、22年度から事業を組み替えキャラバン事業として実施。				
経過	区事業でも実績のある荒川少年少女合唱隊を交流都市（平成20年度 つくば市、平成21年度 福島市）へ派遣して、現地で交流都市の合唱団とジョイントコンサートを実施し、合唱隊（団）同士の交流事業に参加した。				
必要性	荒川区と交流都市との交流は、双方の地域の祭りに参加し、名産品を紹介・販売するなどが中心になっているが、それぞれの都市を代表するような団体の交流は伝統芸能分野の他は十分に図られていない。芸術・芸能・文化の面で、荒川区から区を代表する団体・個人を紹介するという面を強調する必要がある。				
実施方法	（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）				

		（単位：千円）						
		16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
予算・決算額等の推移	予算額					882	1,824	2,454
	決算額（22年度は見込み）					701	1,316	2,454
	人件費					2,710	2,850	
	【事務分担当】（%）					32	35	
	合計（+）	0	0	0	0	3,411	4,166	2,454
	国（特定財源）							
	都（特定財源）							
	その他（特定財源）							
	一般財源	0	0	0	0	3,411	4,166	2,454
	実績の推移	事項名	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度

# 事務事業分析シート（平成22年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成20年度（決算）		平成21年度（決算）		平成22年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
		報償費	演奏会企画料	100	指導料等	30	指導料等
旅費	職員旅費	56	職員旅費	192	職員旅費	142	
特別旅費	キャラバン隊交通費	58	-	0	-	0	
食糧費	食糧費	104	食糧費	331	食糧費	270	
一般需用費	-	0	土産購入	11	記念品、消耗品等	40	
その他の通信運搬費	-	0	参加者交通費	432	キャラバン隊交通費	215	
保険料	保険料	23	保険料	17	保険料	28	
使用料及び賃借料	バス借上げ・宿泊料	541	バス借上げ・宿泊料	303	バス借上げ・宿泊料	1,495	

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		19年度	20年度	21年度	22年度	目標値 (25年度)	
標	参加団体等の数		1	1	3	4	あらかじめキャラバン隊として参加する団体の数
	訪問都市数		1	1	3	4	キャラバン隊が訪問する交流都市の数

（問題点・課題）	キャラバン隊として区を代表するような団体の発掘派遣する交流都市の受入れ準備等の協力が不可欠
他区の実況	（ 実施 区                      未実施 区 ）

問題点・課題の改善策検討	
平成23年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
A C C や社会教育課等からの情報収集に努める	キャラバン隊としてふさわしい個人・団体が発掘できる
前年度から交流都市へ打診し、受入れ協力の可能性等、調整を行う	事前の調整により、派遣先の交流都市が受入れ体制を整える時間もでき、事業を円滑に進められる

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	推進	芸術文化面で区を代表する個人・団体を交流都市に派遣し、交流促進とともに芸術文化振興を図る。

議会議況（要旨）	
----------	--